

## 河田山1号墳・9号墳 附12号墳石室

種 別	史跡
指定年月日	令和4年4月21日
所在地	国府台

梯川とその支流鍋谷川なべたにがわに挟まれた丘陵地こうだやまに展開する河田山古墳群は、昭和60年から61年にかけて団地造成に伴う発掘調査が実施され、総数65基からなる県内最大級の古墳群であることが判明した。

1号墳は、丘陵最高所に築造された前方後方墳ぜんぽうこうほうふんで、3世紀後半（古墳時代初頭）と推定され、全長約25m、後方部長約14mを測る。

12号墳は、7世紀後半（飛鳥時代）の方墳あすかで、調査後に石室をウレタン保護し、そのまま現在の古墳公園内に移設し、墳丘を復元整備したものである。埋葬施設は凝灰岩切石積横穴式石室ぎょうかいがんきりいしつみよこあなしきせきしつで、全長約6.1m、玄室長約5.3m、玄室幅約2.2mを測る。天井の形態などから、朝鮮半島とのつながりをもつとも考えられている。

9号墳は、1辺約12mの飛鳥時代の方墳で、墳丘より凝灰岩の破片や12号墳と同時期の須恵器すゑきが発見され、同様に凝灰岩切石積石室をもつ古墳と推定される。

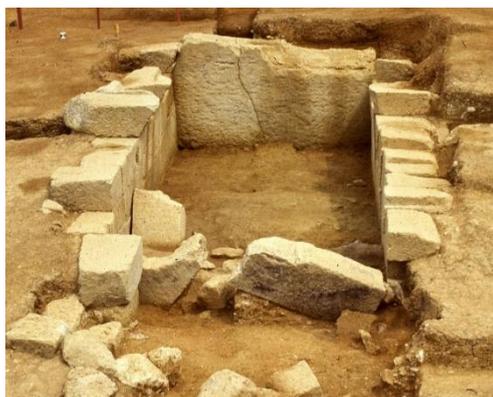
現在、3基は古墳公園内にあり、1号墳と9号墳は現状保存のまま自然林として残されている。

八日市地方遺跡こうしを嚆矢とする稲作社会は、その後、梯川中流域へと集落は拡散・展開し、豊かな穀倉地帯を基盤とした県内屈指の遺跡密集地を形成する。こうして地域首長台頭の舞台が整えられ古墳時代を迎え、初期古墳とみられる1号墳は、梯川流域を一望する丘陵最高所に位置し、君臨した首長がモニュメントとして築造する絶好の立地を示している。9号墳や12号墳は、河田山古墳群の築造最終期で、古墳社会から律令社会への変革期だった。墳丘規模や石室構造などから、南加賀地域の有力氏族に連なる人物の墓と目される。

古墳時代初期と終末期における梯川流域の社会様相を伝える重要な記念碑的史跡である。



位置図



12号墳石室（調査時の様子）